
大樹の英雄

甘味屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大樹の英雄

【Nコード】

N4529N

【作者名】

甘味屋

【あらすじ】

世界的に大ブレイクしている体感型ロールプレイングゲーム「ユグドラシル」の六大ギルド『紅の英雄団』に所属する中堅プレイヤーである主人公カエデ。冷静バカなギルマスや、今だ初心者にも関わらず元気一杯な親友二人。そんな仲間達に振り回されながらもリアル、ゲームともに充実した毎日を送っていた彼は、全プレイヤーの身に降りかかる大事件へと巻き込まれる。別に強くも無ければ弱くも無い主人公が、現実ではない現実で真実を探す物語！

プロローグ

汝、聖杯を求めるか？

求めるならば争え、奪え、そして渴望せよ

さすれば汝の眼に、聖杯は映るであらう。

我は願わん

汝に、終わりがあらんことを

それでは、思う存分、楽しみたまえ

この虚構の世界で

0と1で出来た世界で

汝らが望んだこの世界で

存分に

欲望をさらけ出すがいい

「二人とも走れっ!!」

この世界では主流の武器、片手剣を右手に持った俺は、自分よりもランクの低い二人を逃がすために剣を構えた。相手のモンスターランカー（以下MR）は少々高いものの、今までパーティで狩ってきたので戦闘パターンは大分わかっていた。

（出来る……っ!!こいつ等を逃がして、オレも生き残るぐらい楽勝だ!!）

目の前にいるのは一匹の飛竜。本来なら初心者用のエリア『ムズガルズの森』には出現しないはずの『ワイバーン』だ。

主に中級エリアに出現するそいつは、ランクが四桁程度のランカーなら赤子の手を捻るより簡単に倒すことの出来るモンスターだが、今だランク六桁の俺にとっては中ボス級並の強さはある。

それでも、何回も何回もパーティで戦ってきたので（当然負け試合は多かったが）倒すならまだしも、挽きつける自信はあった。

と、後ろで怯え竦んでいた少女——見るからに魔術師だ——は落ちた帽子を手にとると、混乱した目でこちらに話し掛けてきた。

「え、あ、あなたは……」

「ギルド『紅の英雄団』所属のカエデだ!ここから三百メートル先程度に初心者用のキャンプが張ってある。そこまで走って逃げろ!!」

「で、でも、ワイバーン相手に一人じゃ……っ!」

責任感の強そうな槍使いが、無謀にもプレイ開始時配給されるシヨートスピアを構えて前に出ようとする。

が、始めたばかりの八桁ランカーと共闘するには敵が強すぎる。

「実戦経験も無い初心者が戦える相手じゃない。出来ればキャンプの近くにいるギルドメンバーを応援に呼んでくれ、頼むっ!!」

迫るワイバーンの攻撃を片手剣で防ぎながら、もう一方の手で蛮勇を奮おうとする男を制した。

こちらの真摯の願いが伝わったのか、こちらを何度も振り向くが二人は舗装された森の道を走っていった。

その姿に一安心すると、空中から鋭い爪で攻撃を仕掛けてきたワイバーンに向かってカウンター気味に羽を一閃し、苦痛の悲鳴とともにワイバーンが再び舞い上がった隙に懷からビンに入った回復薬を一気飲みする。

「あゝ、ちくしょう。何度飲んでもなれないな、この苦い味」

環境云々を考えずに、木々の間に空き瓶を投げ捨てた。

回復薬独特の苦味に顔をしかめると、怒りで咆哮しているワイバーンを睨みつける。

正直な話、状況はあまりよろしくない。生粋の剣士職である俺は、仲間の魔法剣士のナンパ野郎のような回復術は使えないし、魔術師の（とてもカワイイ）幼なじみのように遠距離技は持っていないかった。

つまり、俺が攻撃するには飛び上がって斬る、又はカウンターするかの二択のみだ。多分と言うか、絶対に防戦一方になること確定だが……、

「二人がキャンプまでついてくれれば大丈夫か。今日は物好きな大

将もいることだし」

初心者狩りに怒るあまり自らが予定していた大遠征をキャンセルして、この初心者エリア『ミズガルズの森』までやってきた『ギルドマスター』を思い出して安堵の溜息をつく。

そう、持ちこたえればいいのだ。

VRMMORPG【ユグドラシル】で最強ランカーと呼ばれる『炎髪の大英雄』が応援にくるまで。

「こいよ化け物。英雄が来るまでの時間稼ぎに遊んでやる」

真っ赤な髪を掻き揚げて、カエデは不敵に微笑んだ。

汝、聖杯を求めるか？

求めるならば世の果てまでも願いつづけ、叶える意志を持て

さすれば汝の眼に、聖杯は映るであろう。

我は願わん

汝に、始まりがあらんことを

それでは、思う存分、楽しみたまえ

この夢の世界で

0と1で出来た世界で

汝らが望んだこの世界で

存分に

その勇気を試すがいい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4529n/>

大樹の英雄

2010年10月9日14時10分発行